

岩手県私学フェスティバル 大雨の中で開催

10月10日、盛岡駅前滝の広場を会場に第16回岩手県私学フェスティバルが開催されました。待ちに待った3年ぶりの開催。これまで7月から5回の実行委員会・フェスプロ会議を重ね、コロナ禍の中、各校とのつながりを築きながら準備を進めてきました。

当日はあいにくのどしゃぶりの大雨。前日は「中止するか決行するか」で喧々譁々の議論でしたが、最終的に「やれるところまではやってみよう」との事務局校(盛岡誠桜高校)の決断で実施を決定しました。

オープニングは盛大附属・盛岡誠桜合同の「さんさ踊り」。開会行事に続き、国会議員4名とのトークセッション。ステージ発表では、バトントワリング、合唱、ダンス、バンド、吹奏楽など各校の多彩なパフォーマンスが披露されました。また、各校の出店では、手作り菓子、パン、餅なども販売され、会場の雰囲気盛り上げてくれました。ようやく雨が小やみになり始めたフィナーレでは、参加したおよそ200名の生徒たちによる群舞。圧巻のパフォーマンスに多くの人が立ち止まって大きな拍手を送ってくれました。

成果発表で魅力伝える 国会議員とのトークセッションも

盛岡駅前
私学フェス



「第16回私学フェスティバル2022 in 盛岡」のオープニングを飾った盛岡大附、盛岡誠桜の生徒によるさんさ踊りのパフォーマンス

第16回私学フェスティバル2022 in 盛岡(同実行委員会)委員長の土屋直人私学助成をすすめる岩手の会(会長)は10日、盛岡市のJR盛岡駅前滝の広場で開かれた。県内の私立高に通う生徒が活動成果を発表して学校の魅力を発信。トークセッションを通して、高校生が安心して学ぶための私学助成への生徒によるさんさ踊りのパフォーマンスでの理解を呼び掛けた。同フェスティバルは、私学デーのイベントとして2005年から実施され、コロナ禍による中止を経て、3年ぶりの開催。盛岡誠桜、盛岡大附、盛岡スコーレなど8校が参加し、生徒有志による同プロジェクト実行委員会が中心になって準備を進めてきた。

の理解を呼び掛けた。同フェスティバルは、私学デーのイベントとして2005年から実施され、コロナ禍による中止を経て、3年ぶりの開催。盛岡誠桜、盛岡大附、盛岡スコーレなど8校が参加し、生徒有志による同プロジェクト実行委員会が中心になって準備を進めてきた。

の開催に力を込めた。トークセッションには、横澤高徳参院議員、階猛衆院議員、藤原崇衆院議員、高橋千鶴子衆院議員が登壇し、高校生と意見を交わした。教育費負担の公私間格差については、20年度から国の高等学校就学支援金制度が拡充され、世帯収入590万円未満世帯(本県は6

20万円未満世帯を対象にして上乗せ補助)の私立高校に通う生徒の授業料負担は大幅に軽減されたが、他の地方自治体と比較するとまだ差があること、公等しく提供するため、立比べて入学金、施設使用料の負担が相変わらず大きいことなどが挙げられた。

ほかの先進国と比較し、日本は子育てや教育にかける予算が少な

りのパフォーマンスでの開幕。開会行事には、県選出の国会議員や県議会議員ら9人を含む来賓10人が出席。同プロジェクト実行委員長の松田美空さん(盛岡誠桜3年)が「私たち私立高校生にできることは何かなど意見交換しながら、コロナ禍の中、各高校の枠を超えてつながってきた」とあいさつし、3年ぶりの

の開催に力を込めた。トークセッションには、横澤高徳参院議員、階猛衆院議員、藤原崇衆院議員、高橋千鶴子衆院議員が登壇し、高校生と意見を交わした。教育費負担の公私間格差については、20年度から国の高等学校就学支援金制度が拡充され、世帯収入590万円未満世帯(本県は6

20万円未満世帯を対象にして上乗せ補助)の私立高校に通う生徒の授業料負担は大幅に軽減されたが、他の地方自治体と比較するとまだ差があること、公等しく提供するため、立比べて入学金、施設使用料の負担が相変わらず大きいことなどが挙げられた。

ほかの先進国と比較し、日本は子育てや教育にかける予算が少な

(2022(令和4)年10月12日付「盛岡タイムス」)

